

平成23年 3月16日

平成23年度

葛飾区生涯学習振興ビジョンの取組について

一人ひとりが輝き「元気なかつしか」をつくる

学びと交流による

“ひとづくり・まちづくり”

目 次

1 区民の多様な「学び」を通して元気な葛飾をめざします	
（1）かつしか区民大学の開設	1
（2）わがまち楽習会の実施	2
（3）郷土と天文の博物館事業の推進	3
（4）図書館サービスの充実	4
（5）かつしか地域スポーツクラブの推進	5
2 学校と地域が連携・協働し、子どもの育ちを応援します	
（1）学校地域応援団の推進	7
（2）放課後子ども事業の充実	7
3 地域全体で子育て・家庭教育への支援を進めます	
（1）家庭教育への啓発・支援	9
（2）子育て・家庭教育に関する学習機会の提供	10
4 生涯学習推進体制の整備を進めます	
（1）生涯学習情報システムの構築	11
（2）中央図書館等の整備	11
（3）スポーツリフレッシュ事業の推進	12

【取組の方向1】

区民の多様な「学び」を通して元気な葛飾をめざします

(1) かつしか区民大学の開設【生涯学習課】

学びと交流の楽しさを基盤とし、かつしかの特徴や魅力を学ぶ「葛飾学」をはじめ文化・教養、ボランティア、健康、生きがいなど、多様な分野について学ぶ新たな区民の生涯学習の場として、区民大学を開設する。

学習の成果を活かし、学習支援や地域・ボランティア活動等の担い手として活躍できる人材を育成する。

全庁的な連携による講座のほか、区民や団体が参画し企画運営する講座、大学などの教育機関との協働による講座も開設する。

また、区民大学の企画運営への参画や、地域での各種活動の担い手となる人材を「生涯学習マイスター」として認定・登録する制度を設ける。

項目	平成25年度までの目標	平成21年度実績
講座実施数	162コース	16コース
受講者数	延べ13,875人	2,660人
マイスター認定者数	75人	0人

【平成23年度の取組】

平成22年4月に開校し、12月末現在で33コース48講座を実施し、延べ7,200人以上の区民の方々が受講した。

平成23年度は、講座の充実を図るとともに、区民の学びの成果が、暮らしを豊かにし、地域や社会に還元され「夢と誇りあるふるさと葛飾」のまちづくりへ発展していくよう、学びのしくみを整える。

① 行政企画講座の実施

生涯学習課・博物館、他所管の区民大学講座を実施する。

② 区民運営委員会による講座の企画・実施

第2期区民運営委員を公募し、区民運営委員会による企画運営講座を5コースから7コースに増設する。また、区民運営委員会の実績を踏まえ、特別講演会の運営等、その役割と機能の拡大を図る。

③ 「かつしか郷土かるた」の制作

教育振興ビジョン（第2次）に位置付く「かつしか郷土かるた」を、児童・

生徒と区民運営委員会、「かるた講座」参加者との協働により制作する。また、学校と連携し活用と普及に取り組み、ふるさと葛飾への理解を深め、郷土愛の醸成を図る。

④ 区内教育機関等との連携講座の実施

東京理科大学や東京聖栄大学等の区内教育機関等との連携講座を、かつしか区民大学として実施する。

⑤ 情報誌「まなびぷらす」及びメールマガジンの発行

かつしか区民大学情報誌「まなびぷらす」を年2回(5,000部)発行するとともに、メールマガジンを定期配信(毎月10日配信)する。

⑥ 特別講演会の実施(2回)

話題性のある内容や著名な講師による特別講演会を実施し、新しい参加者を開拓し、かつしか区民大学の一層の周知を図る。

⑦ 学習単位認定制度の実施

12月末現在、グッドチャレンジ賞(30単位取得)を7人に交付した。平成23年度も、認定証の交付が学びの励みとなるよう周知を図る。

⑧ 生涯学習マイスター認定制度の検討

かつしか区民大学や地域の様々な学習活動の支援者として活躍できる人材を育成・認定する制度について検討する。

(2) わがまち楽習会の実施【生涯学習課】

区民のくらしの向上に役立つテーマの学習や、地域の連帯感を醸成するためのイベントなどを通して、区民が楽しく学び、考え、交流し、仲間づくりをすすめる機会として「わがまち楽習会」を実施する。

地域との関係が希薄といわれる団塊の世代をはじめ、幅広い層の区民に働きかけ、地域の課題に関心をもつ区民を増やし、区民力や地域力の向上につなげていく機会とする。

項 目	平成25年度までの目標	平成21年度実績
実施地区(団体)数	延べ 40地区	6地区

【平成23年度の取組】

わがまち楽習会は、平成21・22年度を試行期間とし実施した。2年間で延7団体の学習団体等と協働し、区内各地域で多彩な事業を展開することができた。

平成 23 年度からはその試行事業の成果をふまえ、地域で楽しく学び、交流できる場をひろげていくため、新たな学習会等を希望する団体に対し企画や実施運営のノウハウを支援するとともに、講師謝礼などの経費を助成する（回数延 20 回、4 団体と協働予定）。

地域運営モデル事業として実施してきた「堀切大凧揚げ大会」や「ザ・にいじゅくフェスティバル」等のイベントについては、平成 22 年度をもってモデル期間が終了するが、地域の方々の積極的な取組により住民相互の交流や地域の活性化に大きく寄与しており、平成 23 年度からは地域振興部と教育委員会が共催で実施する。

（3）郷土と天文の博物館事業の推進【生涯学習課】

郷土と天文の博物館は、生涯学習・教育施設として、幅広い層の利用を促進し、生涯学習・学校教育活動でのより一層の活用を図るため、常設展示について調査・研究を基に展示替えを実施するほか、特別展等では他地域の博物館などと連携・共同展示を進める。

また、収蔵資料の活用を図るため、データベース化をさらに進める。

講座については、体験を取り入れた体験型学習を充実し、プラネタリウム番組の制作では、海外のプラネタリウムや国等の天文機関と連携し、共同番組制作を進める。

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
博物館ホームページへのアクセス件数（年間）	9,000 件	（平成 23 年 4 月 H P 開設予定）

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
プラネタリウム番組制作数（*）	85 本	20 本
児童向け体験学習受講者数	延べ 5,700 人	延べ 1,401 人

*うち海外プラネタリウム等との共同企画や天文機関と連携した番組制作数延べ 5 本

【平成 23 年度の取組】

平成 23 年度は開館から 20 年の節目あたり、開館 20 周年を記念した展示、葛

飾を通過していた古代「東海道」をテーマにした特別展、郷土の歴史の証しである文化財を取り上げた企画展並びに葛飾区在住の人間国宝の技を紹介する企画展を開催する。プラネタリウム番組は、20周年を記念し宇宙の歴史を紐解く番組を制作するほか、子ども向けのプラネタリウム番組については、平成23年度からの2年間で4番組をリニューアルする。

入館者、プラネタリウム観覧者の増加を図るため、博物館を1年間通して利用できるパスポートを発行する。年始の1月2日・3日を開館して、プラネタリウム正月特別番組を上映する。

また、4月には博物館独自のホームページを立ち上げ、郷土分野・天文分野の各種イベント情報等を、インターネットを利用して発信するとともに、いつでも、どこでも、だれでもが博物館の収蔵品や文化財の情報を入手できるシステム「デジタルミュージアム」を構築し、博物館のより一層の活用を進める。

このほか、小学生を対象に、葛飾の歴史について体験的に学ぶ「かつしか郷土塾」や宇宙への関心を育む「かつしか宇宙塾」（小学校5・6年生対象）、「かつしか宇宙塾ジュニア」（小学校4年生対象）、中学生を対象に英語を使い宇宙について学ぶ「スペースカレッジ」を実施する。また、新たな取組として、あだたら高原で実際に星空を観測する「星空体験ツアー」（小学校5・6年生対象）を開催する。

（４）図書館サービスの充実【中央図書館】

区民の一人ひとりの学習活動を推進するため、生涯にわたり自主的な学習を行う社会教育施設としての機能を充実していく。区民の身近な『知の拠点』として、これまでの図書・資料の提供による学習支援に加え、地域が抱える課題の解決やビジネス、医療・健康、福祉などに関する情報や資料等の情報提供サービスを整える。

また、学校図書館支援、子どもの読書活動の推進などに引き続き取り組む。

平成22年が国民読書年と定められたことを受けて、読書に親しむきっかけをつくる事業を展開していく。

項目	平成25年度目標	平成21年度実績
図書・資料の貸出数（年間）	360万冊	327万冊
区内の図書サービスを利用したことのある区民の割合（*）	36%	32%

*葛飾区政策・施策マーケティング調査

【平成 23 年度の取組】

利用者が必要な時に必要な図書や情報を効率的に受けられるよう、ICTを使った体験講座など利用教育を進める。情報拠点として必要とされるビジネス支援、医療、法律等の情報を収集するとともに、ビジネス相談会などの事業を展開する。公立図書館広域ネットワークや区内外の教育機関との連携により、情報資源の活用、提供を推進する。

立石図書館は建て替えが終了し、平成 23 年 6 月末にオープンするが、中央館に次いでビジネス支援や新たな取組の場とする。また、リサイクル清掃関連施設との複合的な機能を活かし、リサイクルや環境に係わる活動支援になる資料の積極的な収集、提供を行う。

蔵書・図書館利用や読書のきっかけとなる行事の充実により、乳幼児期から青年期までの読書環境の向上を図る。学校連絡会の開催や新宿図書センターを拠点にした団体貸出配送の充実により、学校との連携を深め、学校図書館に対して総合的な支援を行う。

高齢者や障害のある方が快適に利用できるよう、障害者サービスのPRを行い、利用の促進を図る。また、ハンディキャップ専用機器を活用した読書環境を整備し、情報収集、活用を援助する。サービス面では、ボランティアの協力による録音図書・点訳図書や、拡大写本の導入、宅配サービスなどのハンディキャップサービスを充実する。

（5）かつしか地域スポーツクラブの推進【生涯スポーツ課】

身近な地域で、健康で生き生きと暮らすために、年齢や興味・関心・技術レベルなどに応じて、定期的・継続的にスポーツに親しむ地域スポーツクラブを育成する。

育成にあたっては、育成検討委員会においてモデル地域を選定し、設立に向けた手法やノウハウの蓄積と課題を検証しながら進め、当面区内7か所への設立を目指し、区民への理解と協力を深めていく。

クラブの運営は区民が主体的に行い、子どもが地域でスポーツをしたり、地域の大人たちが子どもとスポーツをしたり、高齢者がスポーツに親しんだりするなど、区民がスポーツに「する・見る・支える」などさまざまな形で携わり、地域交流や地域貢献を重ねながら、健康・体力の維持増進、地域コミュニティの形成、子どもの健全育成を醸成する。

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
区内で設立されたクラブ数	3 か所	2 か所

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
地域スポーツクラブ加入者数	600 人	470 人

【平成 23 年度の取組】

設立後 2 年が経過した「こやのエンジョイくらぶ」では、今年度、定期プログラムを 19 種目から 21 種目へ増やし、平成 22 年 12 月末現在で 317 人が会員として活動している。

平成 22 年 4 月よりスタートした「オール水元スポーツクラブ」は、15 種目の定期プログラムで運営され、12 月末現在 240 人が会員として活動している。

平成 23 年度は、両クラブに対して、育成支援指針に基づいた運営面の側面支援や指導助言、クラブメニューの開発や会員獲得、指導者育成に関わる情報提供など、クラブの自主自立に向けた育成支援を進め、クラブと区のパートナーシップの確立を推進する。

かつしか地域スポーツクラブ育成検討委員会で選定する 3 か所目のクラブ設立地域においては、地域住民に対する啓発活動を進めるとともに、地域説明会や研修会を開催し、設立準備に向けた組織整備を目指す。

【取組の方向 2】

学校と地域が連携・協働し、子どもの育ちを応援します

(1) 学校地域応援団の推進【地域教育課】

学校教育を支援する「学校地域応援団」を各学校に設置し、児童・生徒の学習支援や教育環境の整備、安全活動等に、地域が学校に協力して取り組む仕組みづくりを行う。

項目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
ボランティア参加者数（年間）	14,000 人	6,211 人
外部評価アンケート（*）	80%	79.1%

*学校教育アンケート「学校は保護者や地域の人などが積極的に教育活動に関われるように工夫しているか」についての肯定的な回答の割合

【平成 23 年度の取組】

平成 23 年度は、学校地域応援団の設置校を拡大し、延べ 25 校を予定する。また、設置校での教育的効果や学校・地域・家庭との連携に関わる効果などを検証し、事業推進のための課題や今後の方向性を整理する。

地域コーディネーターの力量を高めるための研修会を開催する。

また、魅力ある区ホームページやよりわかりやすいパンフレットの作成、活動報告会の実施を通じて、本事業を広く区民に知らせるとともに、ボランティアをはじめ、学校を支援する人材の発掘や育成を行う。

(2) 放課後子ども事業の充実【地域教育課】

放課後や土曜日、三季休業中の学校施設を活用し、地域の方々の見守りのもと、放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）を全小学校で実施し、子どもたちの安全で楽しい遊び場を提供している。活動を通じて子ども同士や地域の大人との交流のなかで、自主性や社会性を育んでいく。

現状の子どもたちは、学ぶ習慣や体験しチャレンジする心、ルールを守る心や人間関係を構築する力などに弱い面があり、このような課題に対し、学校教育と放課後子ども事業が連携し、協力し合って対応していくことが必要である

ことから、教育面に配慮しつつ活動内容の充実を図っていく。

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
児童の登録者数	10,500 人	10,294 人

【平成 23 年度の取組】

活動内容の充実について、平成 20 年度から自由遊びを基本に、学習・文化・スポーツ活動などの新たな活動プログラムを学校と連携しながら実施し、平成 22 年度末で 16 校となった。平成 23 年度は、新たに 5 校程度導入する。

わくわくチャレンジ広場は 4～6 年生を対象にしている学校がほとんどであったが、平成 19 年度から 3 年生を中心に対象学年の拡大に取り組み、平成 22 年度末で 3 年生以上を対象とした学校は 27 校となる。引き続き地域の理解と協力を得ながら、平成 23 年度は 3 年生以下への拡大を含め、3 校程度で対象学年の拡大に取り組む。

【取組の方向3】

地域全体で子育て・家庭教育への支援を進めます

(1) 家庭教育への啓発・支援【地域教育課】

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」の実施や「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」の作成、「ノーテレビ・ノーゲームデー」の実施を通して、子どもの生活習慣確立の大切さを啓発していくとともに、保護者の主体的な取組を促していく。また、「家庭教育のすすめ」を作成し、家庭教育の重要性についての啓発普及を進めていく。

さらに、PTA活動への支援や学校地域応援団の取組を活用しながら、保護者相互の交流、学校との協働関係を通して、家庭の教育力向上のための支援を促進していく。

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
平日午後 9 時 30 分までに就寝した児童の割合 (小学校低学年) (*)	75%	69%
平日午後 10 時までに就寝した児童の割合 (小学校高学年) (*)	60%	56%

*「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」による児童の生活習慣に関する基礎データ調査

【平成 23 年度の取組】

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」については、平成 22 年度は 10 会場 15 団体 (小学校 2 校、保育園 10 園、幼稚園 2 園、地域教育課主催 1) で実施した。平成 23 年度は 22 年度と同様 10 会場で開催するが、各団体の共同実施を検討し、できるだけ多くの団体・人が参加できるように取り組む。

「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」については、平成 22 年度は平成 23 年度版を作成し、小学生用は区立小学校全児童、幼児用は区内幼稚園、保育園全児童を対象に、配布する。平成 23 年度は平成 24 年度版を作成し、児童の意識を高めるために、小学生を対象に「(仮) 朝食レシピコンテスト」を開催し、カレンダー活用の動機づけとなるようコンテスト入賞者の作品をカレンダーに掲載し配布する。

「家庭教育のすすめ」については、平成 22 年度は幼児～小学校低学年版、小

学校中・高学年～中学生版を保護者向けに配布するとともに、リーフレットを周知するための説明会を実施した。平成 23 年度は「家庭教育のすすめ」を活用した家庭教育の勉強会を実施する。

「ノーテレビ・ノーゲームデー」については、平成 22 年度は家庭での実践を促進するために、保護者等を対象に「家庭教育フォーラム」等を 3 回開催した。平成 23 年度は小・中学校に対し「ノーテレビ・ノーゲームデー」推進事業実施校を募集し、土曜公開授業で啓発事業を実施する。

(2) 子育て・家庭教育に関する学習機会の提供【地域教育課】

子どもの年齢や発達にあわせた講座の実施をはじめ、保護者や各種団体が行う学習活動を支援することにより、子育て・家庭教育の学習機会の拡大を図っていく。

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
子育て・家庭教育講座の参加者数	延べ 5,895 人	1,095 人
子育て・家庭教育応援制度の利用団体数	延べ 213 団体	35 団体
子育て・家庭教育応援制度の参加者数	延べ 8,550 人	1,740 人

【平成 23 年度の取組】

子育て支援部、保健所との連携による、1・2歳児の保護者のための子育て講座を平成 23 年度も引き続き 6 コースを実施する。

保護者の団体や P T A、保育園等が行う、家庭教育や子育てに関する自主的学習会へ講師を派遣する「子育て・家庭教育応援制度」については、平成 22 年度は 39 団体に派遣予定であるが、平成 23 年度も同様に取り組む。

また、継続した学習ができるよう連続コース（全 5 回）を新たに設け、N P O 等との協働を通して、地域において家庭教育を支援する人材の育成を推進する。

なお、家庭教育の充実の観点から「家庭教育応援制度」に名称を変更する。

【取組の方向 4】

生涯学習推進体制の整備を進めます

(1) 生涯学習情報システムの構築【生涯学習課】

区民の生涯学習への参加を促し、学習活動が充実・活性化し、交流が進むように、インターネットを活用した生涯学習情報システムの整備を行う。

区民がいつでもどこでも気軽に、学習機会や施設、人材・指導者、教材等の学習情報が入手でき、かつ実際に活動している団体などの活動や成果にもアクセスできる情報システムを検討し、構築する。

【平成 23 年度の取組】

平成 22 年度は、CMS（コンテンツマネジメントシステム：情報管理システム）の更新により、区の公式ホームページがリニューアルされ、区が行う講座やイベント等の区民への情報提供が整備された。

今後も人材情報の提供の充実を図ると共に、団体・サークル情報の提供については、団体情報の収集や更新方法、システム開発について、関係課とも連携し引き続き検討する。

(2) 中央図書館等の整備【中央図書館】

中央図書館を金町駅南口再開発事業地内に移転し、区内図書館のセンター機能の強化及び、区民の多様なニーズに応えられるよう、開館時間の延長や ICT サービスの拡大を進めることで、区民の多様な学習の場を提供する。

専門的な資料や地域資料を充実させ、より高度なレファレンスを提供することで、ビジネス支援や課題解決に向けた生活支援、及び図書館を軸としたボランティア活動の支援を目指す。

また、立石図書館の建替、地区図書館の整備を進めていく。

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
図書館の整備	新中央図書館の開設	平成 21 年 10 月 17 日に開館
	立石図書館の改築	立石図書館の改築工事着工
	図書センター	新宿図書センターの開設 (平成 21 年 10 月 17 日開設)
	地区図書館の整備	(仮称)奥戸地区図書館の設計終了

【平成 23 年度の取組】

平成 21 年 10 月に開館した中央図書館について、今後は利用者ニーズの掘り起こしや、課題解決型図書館として多角的な資料収集と事業展開を引き続き行う。また、年末年始（12 月 31 日～1 月 3 日）を休まず開館する。

奥戸地区図書館は、平成 23 年 4 月 2 日に開館予定である。開館式とオープニングイベントを行い、地域住民への周知を図る。また、南奥戸小学校との連携を進め、地域の読書活動の拠点とする。

立石図書館の建替えについては、平成 23 年 3 月に竣工し、4 月からはシステム設置、図書の配架など、開館に向けての準備を進める。6 月末の開館にあわせて、リサイクル清掃課との共同事業を始め、オープニングイベントを行い、地域への周知を図るほか、利用促進のための行事等を行う。駅に近接した立地を生かして、開館日・開館時間を拡大する。

（3）スポーツ施設のリフレッシュ事業の推進【生涯スポーツ課】

多種多様な区民ニーズに的確に対応できるスポーツ施設を整備する。特に、スポーツやレクリエーション活動の中核施設となっている総合スポーツセンターの改修整備、設備機器の更新を行い、安全で安心して快適に利用できる施設環境を整える。

水元体育館（体育館・温水プール）の老朽化が激しいため、フィットネスパーク整備事業として改築を進める。また、水元中央公園部分も含めたスポーツ公園としての整備を行う。

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
スポーツ施設の利用者満足度（*）	60%	50%

* 葛飾区政策・施策マーケティング調査

【平成 23 年度の取組】

総合スポーツセンターは、昭和 59 年の開館以来 26 年が経過し、各所に経年劣化が見られる。温水プール館・エイトホールとともに平成 17 年度に実施した建物診断結果をもとに、安全で安心して快適に利用できるよう緊急性の高い項目から改修整備を行っている。

平成 23 年度においては、総合スポーツセンター体育館の電気設備及び給排水設備等の改修、更に今後予想される猛暑対策のため大体育室、小体育室、第一・第二武道場、弓道場に新たにエアコン設備を設置する。

フィットネスパーク整備事業については、体育館の実施設計等を行う。建築面積約 5,000 m²、延べ床面積 12,000 m²の体育館・温水プールへの建て替えをはじめ、少年野球・サッカーができる屋外運動施設の新設など、公園全体が一体的に、区民のスポーツや健康づくりをサポートする公園として機能するよう整備を行う。

